

平成22年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 本部

1 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
平成22年5月21日(金) 午後3時30分	第1号議案 平成21年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 評議員の補充について 第3号議案 理事長の互選について 第4号議案 日本財団助成事業の業者選定について
平成22年7月15日(木) 午前10時00分	第1号議案 港ワークキャンパス 第二工場改修工事 入札業者の承認について
平成22年11月15日(月) 午後3時00分	第1号議案 平成22年度 上半期事業報告・中間決算 (案)について 第2号議案 名古屋市緑風荘の譲渡への応募について 第3号議案 戸田川グリーンヴィレッジ 助成金決定報 告ならびに機器整備の入札実施について 第4号議案 瀬古マザー園 平成会館外壁修繕の実施に 伴う積立金の取崩について 第5号議案 評議員の補充、重任について
平成22年12月27日(月) 午後3時00分	第1号議案 戸田川グリーンヴィレッジ事務用品指名競 争入札予定業者について
平成23年2月22日(火) 午後2時30分	第1号議案 定款の変更について
平成23年3月14日(月) 午後3時30分	第1号議案 平成22年度 補正予算(案)について 第2号議案 平成23年度 事業計画・収支予算(案) について 第3号議案 施設長の任命について 第4号議案 港ワークキャンパス移行時特別積立預金の 取崩について 第5号議案 各規程の改訂について(就業規則・継続雇 用・経理規程)

イ 評議員会の開催状況

開催年月日	議 題
平成 22 年 5 月 21 日(金) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 21 年度事業報告・決算(案)について 第 2 号議案 役員の選任について
平成 23 年 2 月 22 日(火) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 定款の変更について
平成 23 年 3 月 14 日(月) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 22 年度 補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 23 年度 事業計画・収支予算 (案) について 第 3 号議案 港ワークキャンパス移行時特別積立預金の取崩について 第 4 号議案 監事の選任について

ウ 部長会の開催状況

開催年月日	議 題
平成 22 年 5 月 12 日(水)	1. 各施設現況報告・決算報告 2. 戸田川グリーンヴィレッジ進捗報告 3. 処遇改善助成金について
平成 22 年 8 月 4 日(水)	1. 各施設現況報告・第一四半期報告 2. 月次報告・月次試算表について 3. 処遇改善交付金について 4. 職員の定着・掌握に向けて 5. 本部経理負担について
平成 22 年 10 月 19 日(水)	1. 各施設上半期・現況報告 2. ISO9001 認証取得について 3. 法人監査上期報告について 4. 人事考課制度について 5. 戸田川グリーンヴィレッジ進捗
平成 22 年 11 月 30 日(水)	1. 名古屋市緑風荘譲渡の申請報告 2. ISO9001 認証更新について 3. 冬期賞与について 4. 人事について 5. 戸田川グリーンヴィレッジ進捗 6. 時間外勤務について
平成 23 年 1 月 19 日(水)	1. 各施設 第三四半期・現況報告 2. キャリアパス構築に向けた要綱制定について 3. 戸田川グリーンヴィレッジ進捗報告 4. 補正・次期予算・決算等スケジュールについて

平成 23 年 2 月 21 日 (月)	1. 各施設次期事業計画・現況報告 2. マネジメントレビュー 3. 戸田川・緑風現況報告
平成 23 年 3 月 9 日 (月)	1. 平成 23 年度 事業計画・予算について 2. 昇格人事等について 3. QMS 活動について

(2) 登記事項

平成 21 年度資産変更登記 平成 22 年 5 月 28 日登記
 代表者重任登記 平成 22 年 5 月 28 日登記
 法人の目的 (戸田川グリーンヴィレッジ・緑風追記)
 平成 23 年 3 月 16 日登記
 戸田川グリーンヴィレッジ建物 平成 23 年 3 月 15 日登記

(3) その他事業

ア 愛盲報恩会事業

・助成 15 団体 1,560,000 円
 ・第 5 回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式
 平成 22 年 12 月 19 日

イ 国兼基金事業

物故者慰霊祭 平成 22 年 10 月 23 日

ウ 名古屋盲人情報文化センター50周年記念行事

エ 戸田川グリーンヴィレッジ開設準備ならびに竣工記念行事

オ 名古屋市緑風荘 譲渡決定並びに引継ぎ業務

カ 職員のキャリアパス関連要綱 (等級・考課・研修) の整備

キ 内部監査制度の整理 (部内監査制度・ISO 内部品質監査の統合)

ク 職員研修

・平成 22 年度 職員研修会
 平成 23 年 3 月 5 日 (土) 名古屋国際会議場

(4) 会計手続について

- ・ 共済等特別会計ならびに就労支援事業会計において、従業員退職共済の会計処理方法、表記方法を改めた。

2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

(1) 助成に関する特記事項

- ・ 日本財団 4,100,000 円
(光和寮 製本機・パワーリフター・スクリーコンプレッサー)
- ・ 日本財団 3,300,000 円 (光和寮 車両)
- ・ 日本財団 5,000,000 円 (明和寮 印刷製本機)
- ・ 日本財団 1,200,000 円 (港ワーク 缶結束機器)
- ・ 日本財団 14,540,000 円
(港ワーク こんにやく工場改修および設備機器)
- ・ 中央競馬馬主社会福祉財団 2,000,000 円 (戸田川 洗濯機器)
- ・ 愛知県看護協会 890,000 円 (戸田川 車両)

(2) 寄付に関する特記事項

- ・ 坂文種報徳会 様 500,000 円 (本部 法人運営)
- ・ 三菱重工労組名港支部 様 566,820 円 (西部施設 設備)
- ・ 日産化学工業 様 234,000 円 (明和寮)
- ・ 山田二三子 様 100,000 円 (明和寮)
- ・ 足立正幸 様 100,000 円 (明和寮)
- ・ 山盛信吉 様 995,000 円 (港ワーク 設備改修)
- ・ 立川福祉基金 様 219,000 円 (情文)
- ・ 澤井高保 様 100,000 円 (情文)
- ・ 近藤政次 様 100,000 円 (情文)
- ・ 名古屋眼鏡 (株) 様 161,071 円 (情文)
- ・ 安田さち子 様 1,000,000 円 (北部施設)
- ・ 寺西勇二 様 300,000 円 (愛盲報恩会)
- ・ 中島真太郎 様 100,000 円 (国兼基金)

Ⅱ 東 部 施 設

施設入所支援	『光和寮』	－障害者支援施設
生活介護事業	『光和寮』	
福祉ホーム	『かわな』・『やすだ』	
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』	
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぽーと』	
就労移行支援事業	『光和寮』	
就労継続支援事業 B 型	『光和寮』	

当年度においては、就労継続支援事業 B 型における製本機・電動リフト・コンプレッサー・2tトラックなど機器設備面の充実化、就労移行支援事業における養護学校等を中心とした積極的な利用者受け入れ、生活介護事業における重度障害者の受け入れ、クリエイト川名における本格的カラオケ機器導入などの提供サービスの充実化など、利用者確保と事業の活性化に向けた動きを活発に行った。また、エアコンを中心とした老朽化した機器の更新にもできる限り対応し利用者QOLの維持、向上に努めた。

平成 24 年 3 月に迫る障害者自立支援法の経過措置期限を踏まえ、障害者支援施設光和寮における施設入所支援事業の方向性について、利用者・ご家族の意向を把握するための説明会を開催し、平成 24 年度に福祉ホームにすることを決定した。利用者が不安を感じないようスムーズな移行を目指す。

1 施設入所支援『光和寮』

(1) 生活支援

平成 24 年の新法への完全移行を前にして、24 年度以降も施設入所支援事業を継続できることを行政にも確認し、9 月に利用者とその家族に向け、施設入所支援の今後について説明会を実施し、個別に意向を調査し面談を行った。新規利用者は自立支援法の制約から利用できないこと、通所利用になるとガイドヘルパー、ホームヘルパーなどの外部の福祉サービスが利用でき、QOLの向上に繋がることなどから完全に福祉ホームに移行することを決めた。残り 1 年で個々に抱える課題を各個人が主体的に解決できるようにしていく。

(2) 給食及び栄養指導について

当年度は夏場からの 5 ヶ月間、スペシャルランチデーを設け、食材を思い切って豪華にして、うな井、ステーキ、お刺身、フグの唐揚げ、エビたっぷりバリそばなどを提供した。提供したメニューによっていろいろ満足度に差があったが概ね好評を得ることができた。また、夏の熱中症対策にもいろいろ工夫を

凝らした。それ以外に適温提供、献立内容、提供方法、盛り付け等にも工夫を重ねサービス向上に努めた。

(3) 防災と安全確保について

名古屋市健康福祉局指導による総合訓練、昭和消防署指導による施設独自の避難訓練も実施した。

昨年9月の防災の日には東南海沖地震を想定した避難訓練を行った。しかし年度末に実際に東北関東大震災が勃発して認識の甘さを痛感し23年度に向け避難訓練の質の向上だけでなく非常食の在庫数などの見直しを行う予定である。

(4) 地域生活推進に向けて

利用者のニーズに合わせた生活支援を行い、地域移行に必要となる情報提供、行政との連絡調整に努めた。

また、当年度は3名の利用者が家族の協力を得て福祉ホーム「やすだ」への地域生活に結びつけることができた。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	13	0	1	12	32
女	11	0	2	9	
計	24	0	3	21	

イ 障害別状況 (平成23年3月31日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
12	8	1	0	0	0	21

ウ 年齢構成 (平成23年3月31日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	2	5	11	1	21	46.9歳

2 生活介護事業『光和寮』

当年度の取り組みとして、「既存利用者の日中支援の安定」と「新規利用者の獲得」を目標に取り組んだ。21年度より地域活動支援センターと分化し、1日当たりの利用者数が一桁になる曜日が見られたが、当年度スタート時には2桁に届くようになった。日中支援の安定として取り組んだことは、スタッフ体制も新しくなり、活動内容も集団レクリエーションを中心に行いプログラムの安定を図ることで利用者の安定利用と新規利用希望者の受け入れ体制を整えるようにした。結果利用者の安定利用につながった。

新規利用者の獲得に向けては、21年度より各区支援センターや各養護学校へ訪問し、積極的に営業を行ったこともあり、22年度に入ると、東区、昭和区、北区の各支援センターから利用相談を受けるようになった。また雇用支援センターからも希望者の紹介があり、契約にいたるケースもあった。

また、各養護学校からも積極的な実習の依頼を受け、学期ごとに実習を行って行く中で、生徒の障がい特性や対応方法を習得することはもちろん、先生や家族の方との連絡を通して、当生活介護のアピールを行った。結果卒後に当生活介護事業と契約に至った方が4名となった。

その一方で、戸田川グリーンヴィレッジへ入所する方が2名あり、体調不良等の事情で契約解除となった方もおり、来年度は、従来から利用している利用者と卒後の新規利用者との共存が課題となる。その中で、新3年生の実習依頼も増えることが予想されるので、スペースの活用をデイ棟だけでなく、東部施設全体に広げて検討していきたい。

ア 障害別状況（平成23年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
12	12	2	0	10	6	32(10)

() 内は重複障害数

イ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	22	278	12.6	63.1%
	5	18	209	11.6	58.0%
	6	22	265	12.0	60.2%
	7	21	284	13.5	67.6%
	8	19	249	13.1	65.5%
	9	19	263	13.8	69.2%
	10	21	285	13.5	67.8%
	11	20	255	12.7	63.7%
	12	21	259	12.3	61.6%
	1	16	211	13.1	65.9%
	2	20	272	13.6	68.0%
	3	22	391	13.2	66.1%
		計	241	3,121	12.9

3 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) かわな

昨年同様に長期入居者に対して積極的に地域移行の促進を働きかけた結果、市営住

宅に3名移行をすることができた。

設備面では水道メーターの取り替え工事を行った。また当年度多くの居室内のエアコン、給湯器、ほぼ全室にトイレウォシュレットを追加整備したため、暮らしやすくなり、年度末に行った満足度調査では今までに比べると高い評価を得ることができた。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	8	3	3	8	15
女	3	1	1	3	
計	11	4	4	11	

(2) やすだ

福祉ホームに移行し2年目を迎え、利用者もホームでの生活に慣れてきた。自分でやれないことはヘルパーを利用したり、自分なりのリズムで生活する事ができている。「やすだ」での生活からステップアップして、「かわな」での生活へと繋ぐことができ、当年度は2名の利用者を地域移行することができた。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	1	3	7	11
女	1	1	0	2	
計	10	2	3	9	

4 地域活動支援事業『デイサービスセンタークリエイト川名』

視覚障害者を主体とした地域活動支援事業として、創作活動・社会適応訓練・レクリエーション等のサービス提供を行い、前年度同様利用者確保を第一目標とした当年度であったが、21年度当初、利用契約者数25名に対して平成23年3月末現在で利用契約者数30名（男性16名・女性14名）と5名の増にとどまり、1日の利用定員19名に対してはまだまだ及ばず3月末現在で1日平均9.2人であった。

原因としては、利用者の都合による契約解除が4名、人気であるカラオケ・サウンドボール卓球の活動を（クリエイト川名・生活介護）お互いが週替わりで上階の愛光館を使用して活動を行っており、活動部屋が思うように確保できなかった事が主な要因である。

平成23年度に向けては、4月度に3名の方と新規利用契約を行うが、引き続き利用者確保に努める。

課題としては、カラオケ・卓球の活動部屋の調整方法、見直しを行い視覚障害者が安心して通える日中活動の場として広報活動、各関係機関への営業活動を行い新規利

利用者の掘り出し、さらに満足できる活動内容の把握・活動環境の整備・新しい活動のニーズ把握に努め利用者の意向を尊重したサービス提供を行い、現利用者の利用曜日の増加、新規利用者の確保に取り組んで行く。

ア 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	23	210	9.1	48.0%
	5	19	161	8.4	44.5%
	6	23	197	8.5	45.0%
	7	22	192	8.7	45.9%
	8	20	195	9.7	51.3%
	9	20	193	9.6	50.7%
	10	22	205	9.3	49.0%
	11	20	180	9.0	47.3%
	12	20	206	10.3	54.2%
	1	19	167	8.7	46.2%
	2	19	187	9.8	51.8%
	3	23	213	9.2	48.7%
	計		250	2,306	9.2

5 指定障害者居宅介護・移動支援事業『ガイドネットあいさぽーと』

視覚障害者の方への移動支援を中心に事業を行っている。

当年度は、派遣時間数の維持とヘルパーの確保が課題となったが、結果的には主力で生徒の通学の移動支援を中心に従事していたヘルパーが体調不良を理由に長期離脱することになり、他に代わるヘルパーの確保が難しかったこともあり他の事業所に委ねる形となり減少した。

また、従事者の高齢化もあり、入院やけが、体調不良などで従事できない時期が出たことも派遣数減少につながった。

そのような状況の中でも、新たにヘルパー契約を希望する方も22年度は2名確保できた。現在は活動数としてはわずかだが、今後の派遣数確保にどこまで貢献できるか期待したい。

23年度は、あいさぽーとに新任職員も加入する予定なので、業務の引継ぎを行って行く中で、新規利用者の確保に努めていきたい。

また、ヘルパー派遣が難しく責任者自らがガイドをしなければならない状況をできるだけなくし、安定して事務等の本来の業務ができるように改善していく。

6 就労移行支援事業『光和寮』

就労移行支援は訓練室を移動し職員の事務所を構えた中で22年度のスタートを切った。内部訓練としては、訓練室が拡大したことでベルトコンベアー、商品陳列棚を配置し訓練教材を増やすなど訓練内容を充実させ、職業準備性の向上を図った。外部訓練の場としては、スーパーや飲料水会社の倉庫、パン工場などの一般企業で様々な職場体験実習を行い、訓練生の適性把握や就労イメージの形成、就労意欲の向上につなげた。また、関連機関訪問、養護学校からの実習生の受け入れを積極的に行った成果が利用者獲得につながり、前年度末の利用実績数より1日平均約6名増となった。さらに就職者数は前年度より2名増の8名となり目標を達成できた。就職先の職種としては清掃関係5名の他、事務補助、倉庫内作業等となっている。今後は職場定着支援者数が増えて行く中で、訓練の充実、就職活動、利用者獲得等、バランスよく取り組んでいく。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	6	17	8	14	18
女	1	7	1	8	
計	7	24	9	22	

イ 障害別状況（平成23年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
0	1	0	0	16	5	22

ウ 年齢構成（平成23年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
11	5	3	3	0	0	22	25.0歳

7 就労継続支援事業B型『光和寮』

当年度は多くの事業計画の下で、活動が開始された。大きくは、これまでの「印刷科」と「録音速記科」の統合である。目標通り、統合が完了され、一つの「印刷科」として活動し始めている。22年度の中でも、新印刷科の動きそのものについて、模索しながらでもあった事から評価しにくいところだが、徐々に売り上げや科の運営状況が大きく変化もし、良好な方向へ進み始めていると実感する。設備面では印刷科の「製本機」、部品加工科の「電動リフト」「コンプレッサー」また、21年度から進めていた「2tトラック」の整備が完了した。治療部においては目標としていた新コースのスタートをする事ができなかった。しかし、後半においては患者の増加を狙う営業活動の方向を見据えた活動ができた。

22 年度における事業全体の状況としては「攻めの活動」を行い、各科ともそれなりに成果を出すことができた。満足いく数字ではないが、常に前を向いた活動が前年度に比べ成果を出し、従業員・職員ともに意識を改革していく道筋ができたと評価する。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者（）内は通所利用者			工賃（年間総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
鍼灸治療科	7(7)	3(2)	10(9)	290,892	56,461	152,345
印刷科	9(8)	4(2)	13(10)	153,160	41,727	57,493
部品加工科	38(27)	15(9)	53(36)	89,866	6,825	19,635
計	54(42)	22(13)	76(55)	—	—	43,768

イ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	53	6	5	54	80
女	21	3	2	22	
計	74	9	7	76	

ウ 障害別状況（平成 23 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
35	34	1	0	5	1	76

エ 年齢構成（平成 23 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	10	12	16	30	8	76	46.4 歳

Ⅲ 西 部 施 設

施設入所支援	『明和寮』 ー障害者支援施設
生活介護事業	『明和寮』 ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』・『みなと』
指定障害者居宅介護・移動支援事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえつとほーむ』
児童デイサービス	『わくわくキッズ』
相談支援事業	『港区障害者地域生活支援センター』
就労移行支援事業	『明和寮』 港ジョブトレーニングセンター
就労継続支援事業B型	『明和寮』 Bサポート
就労継続支援事業A型	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業B型	『港ワークキャンパス』 KAN食品開発センター

1 施設入所支援『明和寮』

平成24年4月に福祉ホーム（定員40名）へ完全移行を目指し、計画的に福祉ホーム化しており、その第2段階として平成23年4月1日をもって11部屋を福祉ホーム化した（福祉ホーム「あかり」：定員20名→31名、施設入所支援：定員40名→30名に変更）。22年度はそのための準備の期間となった。9月に利用者・家族向け説明会、11月・12月に希望面談、2月・3月に居室の移動、役所手続きなどを行った。面談については、利用者一人ひとりが将来どのように生きていきたいかを聞き、一緒に考えながらQOL支援部として個別支援計画を作成した。

1年間の退所された方の理由は、福祉ホーム移行1名、地域移行1名、他施設移行1名、死亡1名であった。

ア. 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	33	0	4	29	40
女	4	0	0	4	
合計	37	0	4	33	

イ. 障害別状況（平成23年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
9	24	0	0	4	1	38(5)

（ ）内は重複障害数

ウ. 年齢構成 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	4	7	12	10	33	53.0 歳

2 生活介護事業『ぷちとまと』

前年度に引き続き、1 日平均 10 名を目標に活動をしてきたが、3 月末時点で 1 日平均 7.48 名であった。新規利用者 5 名、契約解除者 5 名で、実質登録人数も増えず 18 名にとどまった。港養護学校から 2 名、港支援センター 4 名、中川支援センター 5 名、熱田支援センター 2 名、その他 4 名、それぞれ紹介や問い合わせがあったが、問い合わせ時点でのニーズが殆んど送迎と入浴ということもあり、契約に繋がったのは 5 名のみであった。

計画していた個別支援計画の一覧管理やミーティングは定期的に行った。また、日中のレクリエーションの充実を目指し、遠足行事の企画や外部ボランティア（演奏、マジックなど）を活用するなど、幅を広げつつある。

また、年度末には、限られたスペースを有効に活用するため、収納備品を整備し、事務机を撤去するなどして、スペースの確保も実施した。

次年度は、利用者確保に向け、養護学校からの実習生受け入れの拡大、受け入れ障害範囲の拡大、関係機関に置いて頂けるようなファイル形式のパンフレットの作成、利用者実費負担の見直し、ぷちとまと通信などを活用した定期的な情報発信などを行っていききたい。また、中長期プランも描きつつ、設備改善も検討、実施していく。

ア. 障害別状況 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
2	13	0	0	16	5	36(9)

() 内は重複障害数

イ. 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1 日平均利用 者数(名)	利用率
20	4	21	152	7.23	36.1%
	5	19	146	7.68	38.4%
	6	21	158	7.52	37.6%
	7	21	161	7.67	38.3%
	8	19	141	7.42	37.1%
	9	20	147	7.35	36.7%
	10	20	151	7.55	37.7%
	11	20	150	7.50	37.5%
	12	18	135	7.50	37.5%

	1	17	130	7.65	38.2%
	2	19	138	7.26	36.3%
	3	22	165	7.50	37.5%
	計	237	1774	7.48	37.4%

3 福祉ホーム『あかり』『黎明荘』『みなと』

「あかり」が平成24年4月に福祉ホーム（定員40名）へ完全に移行する前段階として平成23年4月に福祉ホーム「あかり」の定員が20名から31名に変更することとなった。また、当年度は「あかり」居室内で2名の方が死亡される残念な結果となった。利用者の高齢化・重度化が進んでおり、配慮しなくてはならない。

設備面では地上デジタル放送に対応するため、3施設ともアンテナ工事などを行った。施設設備の老朽化は進んでおり（特に「あかり」）、計画的に改修をすすめていく必要がある。

ア. 入退所状況（あかり）

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	11	1	3	9	20
女	6	0	0	6	
合計	17	1	3	15	

イ. 入退所状況（黎明荘）

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	4	0	0	4	10
女	2	0	1	1	
合計	6	0	1	5	

ウ. 入退所状況（みなと）

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	15	1	1	15	20
女	0	0	0	0	
合計	15	1	1	15	

4 指定障害者居宅介護・移動支援事業『みなとガイドネット』

時間数の多い利用者の入院・死亡等により、年度初めに活動実績が減少し、前年度より実績時間が減少する結果となった。しかし、年度後半はイベント等行事もあり活動実績も多くなってきている。当年度は、11月から常勤ヘルパーを増やし（引き継ぎのため）、また、事務員もパートから職員になった為、人件費がかなり増加し、収

支は厳しい結果となった。

ア. 活動実績時間数

	平成 21 年度	平成 22 年度
重度訪問介護 (月平均)	443.8H	457H
移動支援 (月平均)	515.9H	475.6H
居宅介護 (月平均)	191.8H	109H

a) ヘルパー確保と資質向上を図る

計画通り 3 か月に 1 回のヘルパー研修会を行った。どのように聞いていくかまた、聞けるか。声掛けの大切さを判ってもらえるような研修会を実施した。学ぶこと自体は大切で、ある程度の成果も感じているが、実践に移すことはなかなか難しいため、繰り返して、同じような研修会が必要と思われる。

b) 他事業所との連携に努める。

利用者様も高齢になられ、病院通院もケアマネとの連携も必要になってきている。また、一人の利用者様に他の事業所との関わりも増加しており、その点を注意して活動を行う必要がある。ケアマネが主催するカンファレンスに積極的に参加した。

c) 今後の課題

- ・常勤ヘルパーを増やし、4人体制で支援していく。
- ・常時ヘルパーを募集していき、ヘルパーの質的向上に努めるよう指導していく。
- ・通院情報などを利用者様の了解のもと他機関との支援の連携を図る。
- ・本来の目的である外出支援の充実。

5 地域活動支援事業『地域活動支援センターあちえつとほ一む』

地域活動支援事業として立ち上げた事業から 4 年が経過した。当年度は、障害特性を身体・知的にとらわれず、精神も積極的に受け入れ利用者増に努めた。

当年度の新規契約者数 16 名。年度末現在では 96 名(男性 55 名、女性 41 名)の利用者登録がされている。定員 19 名に対し 15.8 名の一日平均利用人数となる。22 年度の年間利用料収入 22,980 千円 (含、送迎加算額 11,161 千円)、重症心身障害者等受入補助金 1,556 千円の総合計 24,340 千円で全体で予算の 108%を達成することができた。

ア. 障害別状況（年間）

性別	視覚障害	知的障害	身体障害	精神障害	備 考
男性	2名	11名	39名	3名	身体+知的(7名)身体+精神(1名)身体+知的+精神(2名)の重複者あり。
女性	7名	8名	23名	3名	
合計	9名	19名	62名	6名	

イ. 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	23	357	15.5	81.5%
	5	20	341	17.1	90.0%
	6	23	382	16.6	87.4%
	7	23	368	16.0	84.2%
	8	21	310	14.7	77.4%
	9	22	354	16.1	84.7%
	10	22	314	14.2	74.7%
	11	22	345	15.6	82.1%
	12	20	343	17.2	90.5%
	1	20	310	15.5	81.6%
	2	21	341	16.2	85.3%
	3	24	389	16.2	85.3%
		計	261	4154	15.9

ウ. 取り組み内容

- ・講座内容:手芸(編み物・ビーズ等)、音楽療法、太極拳、視覚障害者講座(点字学習・ピアフラワー等)、絵手紙、切り絵、麻雀、料理クラブを実施。
おかしクラブを要望により復活、1か月1回実施。
- ・22年度は、スキルアップに課題をおき自主勉強会を月1回開催。(現在も新規自主勉強会を開催中)

エ. 今後の課題として

- 一日の平均利用人数にばらつきを出さず、コンスタントな日常業務にする。
- スタッフのスキルアップと連携性を高め利用者支援に繋げる。
- 今後の利用者増に伴う職員不足を補うため、ボランティアチームを作り利用者スタッフとのラグを埋めるようにする。

6 児童デイサービス わくわくキッズ

開所から3年目が過ぎ、4月の時点から年度末へと利用者の件数も着実に増え33件となった。総利用者数から見て、22年度は平均利用者10.2名と着実に伸びてきた。

今後も新規の利用者確保に力を入れていく。

4月からはスタッフ5名で支援活動にあたった。会議、ミーティングの曜日も昨年からの第3月曜日に行ったが兼務の方の参加が不十分な形となり、第4土曜日とした。活動内容は昨年に引き続いて、親子のふれあいも考慮した企画を行い好評であった。パソコンをやりたい子も多く、今年は時間を決めて2名ずつ行うよう活動に盛り込んだ。来年度もよりよい形で続けていく。

送迎については従前の、のぞみ号と日本財団の助成によるステップワゴン車リースのリフト車で行った。また、緊急時のスタッフの対処の仕方を確立していく話し合いも行った。児童の利用増加に伴いより満足できる活動内容・活動環境の提供を行い、営業日を1日増やした。1年経過しての様子から土曜日も少しずつ利用が定着してきたが、更なる利用の呼び込みを来年度も続けていく。そのためにも個別の支援計画をより充実させていくことが今後の課題である。

ア. 利用児童の学校別の人数：合計 33 名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	当知小	正保小	東築地	名港保	打中幼
18名	2名	2名	3名	2名	1名	1名	2名	1名	1名

イ. 利用児童の障害別の人数 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

ダウン症	自閉症	知的障害	身体障害	ダブル障害	合計
2名	6名	7名	2名	16名*	33名

※ダブル障害：重度心身・全盲含

ウ. 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
10	4	21	197	9.4	94%
	5	19	175	9.2	92%
	6	22	220	10	100%
	7	22	199	9	90%
	8	20	200	10	100%
	9	21	220	10.5	105%
	10	21	231	11.0	110%
	11	21	236	11.2	112%
	12	19	205	10.8	108%
	1	17	180	10.6	106%
	2	20	204	10.2	102%
	3	23	224	9.7	97%
	計		246	2491	10.1

7 相談支援事業『港区障害者地域生活支援センター』

当年度は相談支援専門員が専従4名（内一人は相談支援機能強化員として）の体制になり相談支援事業を実施した。経理事務が1名（週に3日）と、緊急雇用創出事業による短期契約で事務補助（常勤）も1名と計6人の職員体制へと増加したため、職員間のスムーズな業務分担、連携ができるように毎朝ミーティングを行うなど情報共有とコミュニケーションの場を設けている。

また、情報共有としては職員個々のスケジュールをパソコンにて全員が共有することで、それぞれの予定が分かるように変更した。

相談者数は年間で393人（相談者の内訳は、身体障害者は51%、知的障害者は36%、重症心身障害者は2%、精神障害者は11%であり、障害者は86%、障害児は14%）、新規の相談者は198人であった。相談件数は、昨年より全体で670件ほど増加している。これほどの大幅な増加は、相談員の増加も要因として挙げられるが、公的機関・事業者間における支援センターの周知・役割への理解が進んだ結果と思われる。

相談内容については、家族が高齢になり支援の体制を変えていかななくてはならないケースや、家族の入院、家族の借金など、本人を支える家族が様々な課題を抱えるケースが増えてきている。また、通所施設からの相談ケースも増え連携して支えていくケースも増加している。

委託事業である障害程度区分の認定調査、自立支援配食サービス、賃貸住宅入居等居住サポート事業については、利用者数に大きな変化は見られないが、継続してサービス提供を行っている。平成24年度に障害程度区分の更新調査を控え、翌年度下半期より、大量の調査依頼が予定されている。

サービス利用計画作成については、医療機関から在宅生活を送る方などの退院時からの支援を行うなど、年度末時点では14件の継続的支援を行っている。

今後も、サービス調整を必要とする対象者には、安心した地域生活を送れるよう公的機関・医療機関・事業者との連携を深めていくことが必要となる。

港区障害者地域自立支援協議会では、定例会を3回（5月、9月、2月）、就労部会、研修部会（地区別の障害理解推進のための啓発の研修会を8月と10月に実施、港区全体を対象に障害理解を深める研修会を12月に開催）、個別のケース検討会を4回と予定通り開催することができた。

各部会では、事例検討会の実施や熱田・中村・中川区との連携による施設見学会などの開催、部会ではない事業者連絡会においても港区内の施設・居宅事業所とのケース検討などを通じて行政を含めた連絡・連携を深めることができた。

ア. 相談実績件数

月	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
4	59 (1)	183 (0)	4	246 (1)
5	74 (1)	176 (1)	5	255 (2)
6	94 (1)	222 (0)	1	317 (1)
7	87 (1)	204 (0)	3	294 (1)
8	79 (1)	237 (0)	3	319 (1)
9	78 (1)	230 (0)	4	312 (1)
10	57 (2)	204 (1)	6	267 (3)
11	75 (1)	201 (0)	4	280 (1)
12	53 (2)	171 (0)	1	255 (2)
1	56 (1)	207 (0)	7	270 (1)
2	87 (1)	208 (1)	5	300 (2)
3	93 (1)	204 (0)	3	300 (1)
合計	892 (14)	2447 (3)	46	3385 (17)

※ () 内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲 (ピアフラワー講座含む)

平成 22 年 4 月～23 年 3 月までの月平均相談実績件数

訪問相談 74 件 外来相談 203 件 協議会等の開催 3.8 回

訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議 (年 177 件) など
も含む。

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカ
ウント。

8 就労移行支援事業『明和寮』 港ジョブトレーニングセンター

当年度は利用者確保が年度を通じて大きな課題となった。定員 15 名以上の登録は
あったが生活面、体調面から安定利用のできない利用者の影響で、13.7 名の平均利用
者数となった。

就職実績は、企業就労 5 名、A 型事業所 2 名となった。当事業所からすでに採用し
て頂いている 2 企業から更に計 3 名の採用をしていただいたことは、企業との関係も
できていると考えられ大きな成果と感じている。また、他の就労移行支援事業所や関
係機関とも連携がとれてきており、実習先や求人などの情報交換が活発にできた年度
ともなった。

トレーニング内容では施設内に収まらず施設外での作業も取り入れ、利用者アセス
メントにおいて良い材料となっている。今後も全体のバランスを考えながら現体制に
留まることなく事業の魅力を作り続けていきたい。

ア. 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	18	7	9	16	15
女	3	2	3	2	
計	21	9	12	18	

※ 平成 22 年 4 月 1 日付入所者(男 1 名)は本年度入所者に含まない

※ 平成 23 年 3 月 31 日付退所者(男 1 名)は本年度退所者に含まない

イ. 障害別状況 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
1	0	1	0	13	4	19(1)

() 内は重複障害数

ウ. 年齢構成 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
5	8	2	1	2	0	18	27.2 歳

9 就労継続支援事業B型『明和寮』 Bサポート

当年度はビーサポートの運営に加え、他事業を巻き込んださまざまな取り組みをした1年であった。三大プロジェクト(エコ対策、補助金獲得、きらっと one)の中でも特にきらっと one プロジェクトに関しては自動販売機を活用して不安定になりがちな就労事業収入の安定化を目指したものでもあり利用者、職員が一丸となって取り組んでいる。

就労事業については、職業指導員の11名の異動・採用などがあり、今までにない入れ替わりの年となったが数字としては非常に大きな成果を出すことができた。

印刷事業では、作業の効率化や環境の整備によって全体的に受注が減る傾向の中ではあるが健闘している。組立加工事業では多品種になりながらもアイテムを増やすことにより作業確保と売り上げにつながった。包装加工事業では受注数が稼働時間をはるかに越える状況が続いたため、稼働時間の延長などを行ない環境整備に努めた。自動車部品事業に関しては年度末に震災の影響で大口の取引先からの受注がストップしてしまいかなりの影響が出ているが、新規事業やスポット作業を受注することにより売り上げ面では大きなダメージを受けることなく乗り切っている。

他にも補助金を利用しての印刷製本機器整備や愛知県の工賃水準改善事業を活用しての職員の連携力アップ、利用者の声にスピード感を持って対応し、トイレ・出入口などの改修やレイアウト変更など、サービス向上に努めた。

ア. 賃金支払状況

事業	在籍者 ()内は通所利用者			工賃(年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
印刷事業	11(8)	3(3)	14(11)	139,996	16,687	50,947
組立事業	24(11)	5(5)	29(16)	69,750	13,350	38,139
自動車部品事業	39(27)	11(7)	50(34)	71,520	13,350	38,222
包装加工事業	12(11)	1(1)	13(12)	135,415	26,700	59,801
計	86(57)	20(16)	106(73)	—	—	42,393

イ. 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	86	7	7	86	100
女	20	0	0	20	
合計	106	7	7	106	

ウ. 障害別状況 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
16	75	1	0	18	12	122(16)

() 内は重複障害数

エ. 年齢構成 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	5	14	26	31	30	106	50.8 歳

□ 多機能型事業所『港ワークキャンパス』

1 0 就労継続支援事業A型『港ワークキャンパス』

アメリカ金融業界発の世界的規模の構造不況は、年度を越えても回復の足取りは重い。景気の先行き不透明感からか住宅着工件数の回復が思ったほど延びず、接着剤、塗料等の包装材としての缶製品の需要回復には結びつかなかった。

在庫の削減、不良債権の回収、利用者就業時間の短縮、正職員の削減、契約職員化、ロス率の低減、納入価格の見直し等経費の削減策に終始した。

過去 2 年で事業活動収支差額、資金収支差額をそれぞれ約 8000 万円改善できてはいるが、これも事業の伸びが要因ではなく固定費の削減等業務改善によるものである。

A 型に事業移行した年度の大幅な赤字体質はいまだ解消できず、当年度末に行った 8 名の職員削減、生産ラインの見直しによる労働生産性のアップにより、事業再建 3

ヶ年計画の最終年度にあたる 23 年度黒字化を目指したい。

<A 型レトルト加工、糸こんにゃく加工、乾燥蒟蒻加工事業>

糸こんにゃく加工は年間安定した加工数量が確保できており、レトルト加工も新規取引先が増えている。DHC の乾燥粒蒟蒻も平成 23 年 6 月初出荷に向け順調に稼働している。加工賃事業ではあるが 12 名の利用者の事業として育てている。

1 1 就労継続支援事業 B 型『港ワークキャンパス』KAN 食品開発センター

新社屋に移転し固定費の大幅削減ができた事、利用者確保が予定通り進んだ事により事業収支差額で 560 万円、資金収支差額で 203 万円の黒字決算ができた。年度末に起きた東日本大震災により新規得意先が大量にできている。事業開始時からの納入価格の安い得意先を見直し、原材料値上がり分を吸収したい。

引き続き、港ワークキャンパス全体として、製缶、パン缶、レトルト蒟蒻の三本の柱を強化することに注力していきたい。

新社屋 4 階をより近隣住民に利用を呼びかけ、地域交流、利用者の地域移行に利用していきたい。

地域移行推進事業について

- 1) 地域生活希望者に対して、市営住宅申込み等の支援を行い 1 名が当選した。また、入居に関する支援を行い、2 名が転居を完了した。
- 2) ホームヘルパー利用者に関して、継続して連絡調整等の支援を行っている。

ア. 賃金支払状況

科目	在籍者			工賃 (総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続 支援 A 型	60 (50)	2 (2)	62 (52)	239,990	49,158	100,515
就労継続 支援 B 型	12 (11)	8 (8)	20 (19)	59,907	18,997	39,111
計	72 (61)	10 (10)	82 (71)	—	—	—

イ. 入退所状況

性別	期初在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	60	21	9	72	80
女	8	3	1	10	
計	68	24	10	82	

※ 3 月 31 日退所 (男 3 名、女 1 名) は本年度の入所者、退所者に含まない。

ウ. 障害別状況 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	計
10	36	2	2	23	9	82

エ. 年齢構成 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	15	16	17	21	11	82	43.8 歳

※ すべて、年度末現在での状況です。

IV 文化事業部

視覚障害者情報提供施設 ー 『名古屋盲人情報文化センター』

7月2日、逋信会館において創立50周年記念式典を開催し200名に及ぶ方々の参列を得た。併せて発行した、記念誌「夢を紡いで」の編集や記念式典の職員発表では、50年の歩みを振り返ると共に、次の50年への展望を切り開くことができた。

また、300名を超す音訳・点訳・貸出・ガイド等のボランティアが1つとなり、「情文ともの会」を結成。ボランティアとして横のつながりを強化した年となった。

50周年行事の一環として、資料室（ボランティア室）、IT支援室、製版機の防音ブースなどの整備を行なった。

1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H20年度	24	7	153	136	22	311
H21年度	24	8	156	130	29	315
H22年度	23	8	163	122	40	325

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H20年度	18	6	20	4
H21年度	57	4	59	2
H22年度	101	11	107	5

2. 図書館事業部

「視覚障害者総合情報ネットワークサピエ」の始動、改正著作権法施行を受け、読書スタイルの多様化、視覚障害者間の情報格差が進むことが予想される中、「この本が読みたい」という読書（情報）に積極的な声を増やしていくため、その方策について協議を行った。

(1) 蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H20年度	9,145	31,499	8,105	44,802	4,737	4,970
H21年度	9,280	32,004	8,106	46,737	5,240	5,500
H22年度	9,812	34,113	8,465	48,916	5,725	5,692

(2) 新規製作図書

①蔵書

	点字図書		録音図書 (テープ・CD)	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数
H20年度	151	523	173	—
H21年度	139	496	209	—
H22年度	234	866	143	—

②雑誌

	点字		録音 (テープ)		録音 (CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月	月刊	隔月
H20年度	—	—	0タイトル	12タイトル	94タイトル	12タイトル
H21年度	—	—	0タイトル	12タイトル	84タイトル	12タイトル
H22年度	—	—	0タイトル	12タイトル	84タイトル	12タイトル

③プライベート

	点字図書		録音図書 (テープ・CD)	
	タイトル数	冊数	タイトル数	巻数
H20年度	119	377	61	—
H21年度	144	254	48	—
H22年度	104	139	12	—

(3) ボランティア養成

①点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ ^o 講習	英語点訳	触図勉強会
H20年度	—	延べ 117名	延べ 42名	—
H21年度	2講座 25回 延べ 475名	1講座 12回 延べ 192名	—	—
H22年度	—	1講座 13回 延べ 208名	—	—

②音訳ボランティア

	音訳者養成講習会	音訳技術フォローアップ講習(リーダー研修)	デザイナー編集者養成講習会	デザイナー編集フォローアップ講習会	校正者養成講習会(フォローアップ)
H20年度	—	10回 95名	—	2回 25名	15回 210名
H21年度	22回 262名	10回 105名	—	—	2回 60名
H22年度	22回 198名	14回 125名	—	—	—

	プリントモニター養成講習会	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向けフレクストーク操作講習	利用者向けフレクストーク操作講習
H20年度	—	11回 478名	39回 546名	6回 104名	32回 117名
H21年度	—	8回 335名	40回 708名	4回 100名	8回 83名
H22年度	2回 20名	7回 301名	39回 770名	5回 28名	5回 62名

(4) 貸出

①登録者

	個人(内・サピエ)	団体
H20年度	2,310 (233)	542
H21年度	2,382 (259)	551
H22年度	2,464 (335)	556

②利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H20年度	225	1,781	381	13,353	654	18,740
H21年度	199	1,804	346	12,986	700	22,386
H22年度	170	4,022	252	8,325	648	23,679

③資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H20年度	2,001	4,773	14,172	47,670	24,225	24,276
H21年度	1,896	4,841	11,011	39,145	27,120	29,668
H22年度	4,317	7,228	9,143	30,279	31,654	31,709

(5) 情報提供

	ホームページ 情報提供	テレホン サービス	電話ナビ (中日春秋)	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メール マガジン
H20年度	27,303件	1,831件	1,581件	29名	6回 277名	391件
H21年度	43,699件	2,470件	1,578件	25名	6回 244名	476件
H22年度	14,651件	2,217件	1,210件	27名	6回 212名	358件

	点字出力 サービス	対面朗読 サービス	クイックリーディング サービス	代筆・墨訳 サービス	統合教育就 学児支援	盲高・大学 生学習支援
H20年度	60,158枚	20件	1件	30件	5名	5名
H21年度	29,468枚	15件	0件	34件	点字出版へ移行	
H22年度	4,750枚	12件	—	21件	点字出版へ移行	

3. 点字出版事業部

当年度はまさに選挙の年であった。7月・参院選、2月・トリプル選挙、3月・名古屋市議選の業務に加え、点字出版部会として参加した「ゆうびん貯金のお知らせ」の制作等に精力的に取り組んだ。点字サイン関連では、地下鉄新駅開通に伴う点字表示の制作・監修を行なった。

(1) 点字出版物製作

①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	グリーンインブ カート	年賀状 点図シール	一筆箋	エコ バッグ
H20年度	1,397冊	22タイトル	364タイトル	175枚	1,658枚	228冊	
H21年度	1,346冊	83タイトル	145タイトル	136枚	1,810枚	82冊	
H22年度	1,267冊	14タイトル	134タイトル	165枚	1,416枚	176冊	236枚

②受注製作物 (定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市 (広報なご や・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H20年度	印刷 266,950枚	印刷 18,736枚	印刷 94,423枚	生徒7名 38科目
H21年度	印刷 256,545枚	印刷 18,798枚	印刷 106,272枚	生徒4名 21科目
H22年度	印刷 253,944枚	印刷 13,364枚	印刷 88,273枚	生徒5名 12科目

③その他受注製作物

	名古屋市 (行政資料 等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・メニ ー等)	選挙情報(名 簿・投票用 紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガ ス・水道)	点字 名刺
H20年度	8件 49,465枚	25件 23,466枚	19件 62,560枚	18件 30,275枚	印刷 12,941枚	144名 21,108枚
H21年度	10件 74,496枚	32件 35,929枚	19件 138,887枚	24件 210,621枚	印刷 18,344枚	133名 19,521枚
H22年度	10件 73,053枚	27件 48,597枚	15件 185,550枚	38件 315,628枚	印刷 7,342枚	130名 19,506枚

(2) 点字技術支援(点字サイン・UV加工等)

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内触 図案内板	鉄道駅 手すり案内板	鉄道駅 運賃表	タクシー 車内シール	UV加工
H20年度	5,022枚	41駅91枚	34駅498本	109駅134冊	239枚	85点
H21年度	3,517枚	9駅18枚	7駅82本	3駅3冊	1,415枚	44点
H22年度	3,000枚	25駅50枚	29駅465本	100駅162冊	1,593枚	57点

4. サービス事業部

一昨年よりスタートした、MAJ講座(暮らしのお手伝い～みんな集まれ情文へ)をサービス事業部全体で推進をはかり、その成果を9月25、26日の視覚障害者リハビリテーション大会で発表した。

(1) 社会参加・活動支援

①相談支援

	相談支援		合 計
	継続支援(延べ)	新規支援(延べ)	
H20年度	29 (51)	89 (91)	118 (142)
H21年度	40 (89)	86 (99)	126 (188)
H22年度	30 (91)	93 (93)	123 (184)

	生活	点字	コミュニ ケーション	就労	学業	ピア かん	家族	ロービ ジョン	移動	その 他	計
H20年度	30	7	12	19	20	44	6	—	—	17	155
H21年度	44	*注	29	45	8	46	6	5	6	16	205
H22年度	45	*注	30	42	8	58	5	15	14	26	243

注 平成21年度より、点字はコミュニケーションを含む

②中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室			
	人数	うち 新規	回数	自主受講	人数	延べ人数	講座数	回数
H20年度	20	7	44	13名	—	25	8	24
H21年度	22	6	44	11名	15	31	—	5
H22年度	21	5	43	16名	16	80	12	12

	歩行訓練		ロービジョンサロン (金山・キクチメガネ)
	来所	訪問	
H20年度	1	19	7回 8名
H21年度	休止	休止	休止
H22年度	休止	休止	休止

(2) ガイドヘルパー養成講習会

	ガイドヘルパー養成			ガイドボランティア指導		
	講座数	延回数	受講者数	講座数	延回数	受講者数
H20年度	12	30	144	10	11	114
H21年度	7	21	139	6	6	56
H22年度	2	8	30	4	5	42

(3) IT訓練支援

	相談 (延人数)	リモートサポート	個人指導	集団指導	ITバス
H20年度	336	15	118	5	23
H21年度	423	0	171	25	25
H22年度	547	3	156	5	10

(4) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H20年度	26	22	48件	10件	9件	19件 250名
H21年度	16	22	38件	3件	9件	12件 71名
H22年度	12	26	38件	5件	14件	19件 211名

(5) MAJ (みんなあつまれ情文へ) 講習

	回数	延べ人数
H21 年度	35 回	228 名
H22 年度	37 回	239 名

*21 年度より実施

(6) 用具サービス

	読書支援機器			
	プレストーク(録音・再生)PTR2	プレストーク(再生専用)PTN 1 /PTN2	拡大読書器	小型プレストーク PTP1
H20 年度	81	55	49	13
H21 年度	59	50	33	39
H22 年度	88	45	74	45

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H20 年度	494	ネットリーダー(27)	PC-Talker(24)	MyMailⅢ(17)
H21 年度	380	PC-Talker(38)	ネットリーダー(26)	MyMailⅢ(23)
H22 年度	418	PC-Talker(36)	ネットリーダー(30)	MyMailⅢ(24)

5. 利用者および地域住民との交流事業

10月24日に行われた港北公園での港区福祉まつりへ出展し点字・音訳体験コーナーを設け地域住民との交流を深めた。

6. 関係団体の連携事業

日本盲人社会福祉施設協議会・全国視覚障害者情報提供施設協会の会員として、大会、研修会などへ職員を派遣すると共に、委員などの役職もつとめた。

また、名古屋盲学校、岡崎盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、名古屋市視覚障害者協会、東海音訳学習会など中部地区の関連団体と密接に連携して活動を行った。

V 北 部 施 設

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
老人デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』 『矢田マザー園デイサービスセンター』
老人短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

当年度は、正規・非正規を問わず看護職員・介護職員をはじめとした職員の離職者が相次いだため、広報誌や人材派遣など様々な媒体を使っての職員募集を余儀なくされるに至った。

事業運営の安定化及び利用者サービスの質的向上を図るためには職員の定着は不可欠な要素であることから、今後も職員の定着化に向けての取り組みを積極的に行っていく。

収入においては、前年並みで推移し、居宅部門の頑張りが目立つ結果となった。

施設整備の面では、当年度は平成会館の外壁補修工事及び時計塔の修繕工事を実施したが、ナースコールの更新については翌年度へ持ち越しとなった。

また、環境整備プロジェクトについては、当年度は玄関前庭の整備を実施した。来年度以降も順次計画的に実施していく予定である。

1 特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園

利用者の高齢化や心身機能の重度化が常態化し、医療機関への通院・入院の長期化が日常的にみられ、施設の利用稼働率は引き続き厳しい状況となっている。当年度の稼働率は95.2%で前年度比▲0.3%、収入としては対前年度比+0.45%とほぼ横這いであった。

安定したサービス提供、事業運営を図るためにも、引き続き、新たなサービス加算、稼働率の向上への取り組みを進めていかななくてはならない。

当年度は利用者サービス向上、人的資源の定着やスキルアップなどを事業計画として盛り込んで下記の項目に取り組んだ。当初の計画に従って、概ね順調に進めることができた。

- 介護職員のスキルアップのための職場内外の研修参加
- 布オムツから紙オムツへの完全移行
- 業務日報等の記録の一元化（IT化）
- グループを中心にした業務改善と成果の文書化

今後も取り組みを継続し、よりよい利用者サービスと職場環境を目指す。

施設利用状況

定員 (名)	月	延べ在籍者数(名)	1日平均在籍者数 (名)	ベッド稼働率(%)
60	4	1695	56.5	94.2
	5	1712	55.2	92.0
	6	1699	56.6	94.4
	7	1784	57.5	95.9
	8	1798	58.0	96.7
	9	1749	58.3	97.2
	10	1761	56.8	94.7
	11	1722	57.4	95.7
	12	1736	56.0	93.3
	1	1735	56.0	93.3
	2	1602	57.2	95.4
	3	1851	59.7	99.5
		年間	20844	57.1

2 盲養護老人ホーム 瀬古第二マザー園

平成21年度利用者の入所・退所が年間3名であったのに対し、当年度は9名であった。利用者の重度化に伴い、利用者の入れ替え対応に追われた1年であった。

大幅な利用者の入れ替えに伴い、入所待機者の減少及び介護の必要度の増した利用者と支援の必要な利用者が混在するといった利用者像の変化が顕著に見られるようになり施設サービスのあり方の再構築が表面化してきた。そこで、以下について取組みを行った。

- 市内行政機関・地域包括支援センター等への広報活動
- ナースコールの更新に向けての検討
- 業務日報等の記録の一元化（IT化）

施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	49	50	48	50	49	49	49	49	50	—
入所	1	0	0	1	0	2	0	1	3	0	1	0	9
退所	1	0	1	0	2	0	1	1	3	0	0	0	9

3 高齢者デイサービス

(1) 瀬古マザー園デイサービスセンター

当年度年間延べ利用者 6,126 名（前年度 5,590 名）、1 日平均利用者数 19.8 名（前年度 18.1 名）となった。介護保険収入は対前年度比約 10%強増であった。

当年度利用者のニーズを把握し解決する為に、家族と利用者に対してアンケートを実施した。その結果を受けて要望が多かった外出行事を含む行事を下期に毎月実施し、多数の利用者のニーズに応えることができた。

また、ソフト面だけではなく、設備の老朽化が目立つハード面に対しても計画的に準備を進め、利用者に喜んで頂ける環境作りを目指して行く予定でいる。

施設利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1 日平均利用 者数(名)	利用率
30	4	26	473	18.1	60.6%
	5	26	480	18.4	61.5%
	6	26	511	19.6	65.5%
	7	27	547	20.2	67.5%
	8	26	521	20.0	66.7%
	9	26	538	20.6	68.8%
	10	26	555	21.3	71.1%
	11	25	537	20.6	68.7%
	12	24	475	19.7	65.9%
	1	24	456	19.0	63.3%
	2	24	491	20.4	68.1%
	3	27	542	20.0	66.9%
		計	307	6126	19.8

(2) 矢田マザー園デイサービスセンター

当年度年間延利用者 6,348 名（前年度 6,638 名）1 日平均利用者数 20.6 名（前年度 21.6 名）で、前年度比 95.6%であった。

当年度も前年度に引き続き職員全員で取り組んだ『危険の芽』の指摘・改善提案などの地道な努力を行い、サービスの質の向上・職員のスキルアップなどを図ってきた。他の事業所などへの変更などはなく、現在の利用者は当デイサービスを引き続き利用していただいているものの、当年度に於いては、複数回利用の利用者が長期入院されるケースが多く前年度比で減少となった。

設備面に於いては、開所 8 年を迎え修繕箇所が増加が見られる。今後も設備の更新、修繕は必要になると思われる。

次年度は、今まで同様の努力を重ねながら、平成 24 年度の介護保険の改正に向け

ての情報収集を図っていき、設備面に於いては利用者の不便にならないよう計画的に修繕、更新を行っていく予定である。

施設利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
30	4	26	551	21.2	70.6%
	5	26	547	21.0	70.1%
	6	26	542	20.8	69.4%
	7	27	574	21.3	70.8%
	8	26	532	20.4	68.2%
	9	26	562	21.6	72.0%
	10	26	563	21.6	72.1%
	11	26	540	20.7	69.2%
	12	24	498	20.7	69.1%
	1	24	455	18.9	63.1%
	2	24	451	18.7	62.6%
	3	27	528	19.5	65.1%
	計		308	6348	20.6

4 瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所

当年度の稼働率は73.3%と前年度比▲2.0%となった。特に上半期は71.3%と前年度からの利用者数の減少が大きく影響した。下半期は75.3%例年並に持ち直している。

今後も利用しやすい環境の整備、適正な人員配置や効率的な運営を課題に進めながら利用者確保を図っていききたい。

施設利用状況

定員 (名)	月	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	ベッド稼働率(%)
4	4	82	2.7	68.3%
	5	84	2.8	67.7%
	6	89	3.0	74.2%
	7	76	2.5	61.3%
	8	102	3.3	82.3%
	9	89	3.0	74.2%
	10	94	3.0	75.8%

	11	86	2.9	71.7%
	12	94	3.0	75.8%
	1	95	3.2	76.6%
	2	87	3.1	77.7%
	3	92	3.0	74.2%
	計	1070	2.9	73.3%

5 瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所

当年度ケアプラン作成件数は 763 件（前年度 649 件）と増加したが、事業収支差額は依然としてマイナスであった。

今後は、介護保険制度の動向や地域の福祉情勢を把握し、適切な個々のサービスに努める。

施設利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケアプラン作成 件数	支援	13	13	13	13	13	13	13	13	12	13	11	10	150
	介護	46	45	52	52	58	53	52	55	50	54	51	45	613
計		59	58	65	65	71	66	65	68	62	67	62	55	763

6 平成会館

外壁については当年度塗替え工事を実施したが、空調や音響など設備関連もかなり老朽化が進んできているため、次年度より順次更新していく予定でいる。

施設利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用団体数		10	15	10	10	8	13	11	11	10	8	16	16	—
延べ利用回数		16	18	16	16	16	20	14	16	13	10	22	23	200
延べ利用者数		599	744	666	448	475	912	409	338	375	244	529	517	6256